



〈第四十三回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
 次の世代に残しておきたい。
 貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし



昔は高台に位置し杉に囲まれていた神明様。現在は鞍掛山から北西にあるなだらかな丘陵地帯に位置し、周りは民家や白菜畑になっています

十軒の神明様

赤堀十軒の神明宮は、昔は高台に位置して、杉の木立に囲まれ、長い参道の奥に立派な社殿がありました。今の社殿は、昔の奥の院を現在地に移築したものだそうです。春・秋の祭りの日には高いのぼりが立ち、露店も何軒か出てにぎわいました。時代の流れとともに次第に祭りの行事も変わり、昔を知る人たちは寂しい思いがします。

坪谷の稲荷様と犬

篠塚の坪谷に稲荷大明神が鎮座しています。稲荷様のお仕えであるオトカはキツネだ一般的なには信じられています。従って、供え物などもオトカの好きな揚げなどを好むと言われています。

古くから、オトカは犬を嫌いますので坪谷地内では、稲荷様の従者の嫌いな犬を飼うことは禁物でした。もし犬を飼えば、その者にたたりがあるといわれ、誰も犬を飼うものではありませんでした。ところが、昭和20年に戦争が終わり、食料が極度に不足してくると、米盗人が横行しました。そこで、盗人の番をするには、どうしたらよいか、夜警をしようか、何かよい方法はないか思案しました。

そんなとき、ある人が思い切つて、犬を貰つて番犬にしました。犬は見知らぬ人をほえますから、泥棒除けには最適です。こうして米盗人除けに成功しました。ところがその家にも、その者にも、なんのたたりもなかったそうです。このことが、隣近所の話題になって、それから泥棒除けにあちこちで、犬を飼うようになったそうです。

ちなみに、安永8年(1779)蜀山人の『一話一言』に「上州館林茂林寺より一里ばかり西に狸塚といふ村あり、一村狗(いぬ)を畜(か)ふ事を禁ず。…」とありますが、伝承ではそれからしばらくして檀家の若者が禁令を破つて犬をお寺に連れて行き、昼寝していた坊さんを狸の化身だと見破つたといひます。それから狸塚では犬を飼うようになったそうです。



オトカはキツネの代名詞である「御稲荷」を訓読みしたときの【御(オ) 稲(トウ) 荷(カ)】が由来と言われています

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
 平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より



黄色い並木道
 (赤堀地内)



Photo 広報担当者

ひとりごと From editors

広報担当者になり4か月が経ちました。とても早かった気がしますが、まだ4か月。歴代の広報担当者もこの時間の流れを感じていたのでしょう。まだまだ能力が付いてこないまま取材や編集にがむしゃらに向かっています。先輩たちには負けないように頑張りたいです。▶この仕事をしていると今までよりも四季を感じるようになります。秋は体育祭や産業祭、町民文化祭など季節を感じるイベントが盛りだくさんでした。秋はスポーツ、読書、芸術など秋を感じさせられるものがたくさんあります。どの秋もとても良いものばかりですが…。食欲の秋。こいつがくせ者でした。私もかなり影響を受け蓄えは万全。これからどう消費していこうかな…。(本澤)



この広報誌は、自然保護のため
 植物油インキを使用しています。



この広報誌は、東日本大震災で被災した三菱
 製紙のニューVマット紙を使用しています。

邑楽町携帯サイト
 2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。
 携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>



編集・発行 邑楽町役場企画課

〒370-0692 (住所記入不要)

☎ 0276-88-5511 (代表)

☎ 0276-47-5007 (企画課直通)

☎ 0276-89-0136

URL <http://www.town.ora.gunma.jp>
 E-mail koho@town.ora.gunma.jp